



かすことのできない、重要な社会資源であると考えています。困りごとを抱えている子ども居場所として、サポートや支

援につながることも期待しています。

佃 地域食堂は安心できる居場所であり、なくてはならない場所だと思います。ひとり親家庭など、さまざまな困難を抱える人も利用されるので、居場所を作ること、見守ること、そして支援につなげることも、地域食堂の役割だと感じています。

市長 ぜひみなさんに参画していただき、地域のつながりが発展していくことを期待しています。

稲田 TIAでは在住外国人の生活面のサポートや、行政機関からの通訳要請の対応、国際交流イベントへの参加、外国人のみなさんを招いたイベントなどを行っています。昨年に開催された第9回とつとり多文化交流フェスタでは、さまざまな国の文化や食べ物、

遊びなどのブースでたくさんの方が交流を楽しんでいました。また、団体に所属せずに暮らす外国人のみなさんともつながりを持つため、オアシスという名前で茶話会を開いています。日本の文化を紹介しながら、生活で困っていることを聞いたり、さまざまな情報を紹介したりしています。



市長 本市にお住まいの外国人は少しずつ増えてきていて、現在は1800人程度になりました。市役所にも韓国、中国、ドイツの国際交流員を配置して、国際理解や多文化共生などの取り組みを推進しています。これからの時代、文化や歴史の違いをお互いに認め合い、理解し合うことがますます重要になると思っています。

小谷 さじ未来では、ごみ出しや家の草刈り、片付けといった、生活する上での困りごとに対してお助け要員を派遣する助け合い事業、地域内の共助交通であるさじ未来号の運行、放課後児童クラブさじっ子の運営などに

取り組んでいます。助け合いの事業は、主に町内の高齢者に登録していただいているお助け要員の中から、事務局が活動できる人を募集して派遣するという仕組みです。さじ未来号も住民からドライバーを募集して、交代で運転をしていただいています。基本的に高齢者が中心で、元気な高齢者が地域の高齢者を助けると

いうような実情ですので、今後は後継者の確保が一番の課題になってくるのではないかと思います。

市長 本市の9割は中山間地域に該当し、そこに人口の約半分が住んでおられます。高齢化や人口減少、利便施設の減少など、さまざまな課題がある中で、一つ一つ解決を図っていくということがすばらしいと思います。

災害時にこそ 人とのつながりが大切

小谷 一昨年の台風第7号では、これまで経験したことがないような大雨に見舞われ、道路や橋、堤防などの被害により佐治町は一時的に孤立しました。路線バスも約

1カ月半運休しましたが、その間、さじ未来号を運行し、小中学生の登下校や住民の移動に利用していただきました。



市長 発災から1週間後にはさじ未来号を運行されたということ、大変すばらしいと思います。大きな被害が発生した災害でしたが、人命に関わる被害はなく、佐治町のみなさんが、普段から地域のつながりを大切にしている結果ではないかと感じています。

小谷 地域で運営する共助交通に取り組んでいたことで、このような状況になっても自分たちの事情に合わせて運行ができ、本当にかつたてよかつたなと痛感しました。

浅見 子ども連れで避難する場合、何を用意したらよいか分からない、



避難所で子どもが泣き叫んだらどうしようといった悩みも伺いました。また、災害対応で父さんが現場に出てしまうと、お母さんが1人で子どもを何人か連れて避難をするなどの対応をしないといけない。そういう不安な時に、ちょっと助けてほしいと言えるご近所との関係があることが、とても大切だと実感しています。



稲田 台風第7号の災害をきっかけに、佐治町に暮らす外国人がいることを知りました。また、防災イベントでは、災害時に外国人が避難する場合、どこに行けばいいのか、どこに連絡したらいいのか、かが分からず、本当に不安になるといいます。去年のTIA20周年記念イベントでは、防災に関する講演やクイズなどを行いましたし、必要最低限のものを持って避難できるようなペンライトや非常食などを入れた防災ポトルを外国人のみなさんと一緒に作りました。



市長 災害の様相は年々激甚化、頻発化してきており、いつどんな

声がありました。去年のTIA20周年記念イベントでは、防災に関する講演やクイズなどを行いましたし、必要最低限のものを持って避難できるようなペンライトや非常食などを入れた防災ポトルを外国人のみなさんと一緒に作りました。

形で発生するかわかりません。日頃からの備えと、ご家族や近隣の人と協力して避難したり支えあったりできる関係を、平素から築いていただくことがとても大切だと思います。

今年目標・抱負

市長 つながりサポーターは、孤独・孤立状態にならないように、またそのような状態の人を早く見つけて関係機関につなげ、支援をするための取り組みです。本市としても、全国に先駆けて強化していきたいと思っています。

浅見 子どもの発達の支援や子連れ防災の周知など、今の活動を充実させて、必要とする人にお届けできるように思っています。子育てで本当によかったと思える地域づくりのお手伝いが少しでもできたらと思います。

佃 全ての小学校校区に地域食堂を作ることを目標にしたいと思えます。また、食堂という形にこだわらず、今日はしんどいな、何となく気分が乗らないなと思うときに、気軽に立ち寄れるような居場所づくりに取り組んでいきたいです。

稲田 今年の目標は、オアシスを3カ月に1回ぐらいの頻度で開くことですが、TIAは「できる人ができるときに」をモットーとしているので、ゆったりと楽しく明るく前向きに取り組んでいきたいです。それが活動を長く続ける秘訣だと思っています。

小谷 私たちの活動は、人口減少が進行しても、引き続き住み慣れた地域に住み続けていける取り組みを作っていくことです。住民のみなさんの信頼に応えられるような形で、一生懸命取り組んでいきたいと思っています。



市長 本市には、つながりを大切にしながら支え合っているという思いの人がたくさんいらっしゃることを改めて実感しました。先



司会 田中 奏子さん

※座談会の内容は要約しています

座談会の模様は、いなびびよんぴよん ネット(12ch)で放送します。
日時：1月1日(水・祝)、2日(木) 6:00~、9:00~、12:00~ほか
3日(金)、4日(土) 6:00~、15:00~